特定非営利活動法人 山崎・谷戸の会 会報 第61号

2014年 5月 2日発行



本会は、鎌倉中央公園の 貴重な谷戸景観と多彩 な動植物を保全するため、市民活動を実践して いたメンバーが中心と なり、行政との協働で立 ち上げたものです。

···会員随時募集中!··



昨年の田植えの様子(6/9)

☆ 各班からのお 知らせ→2・3p ☆ 谷戸の自然だより→4p ☆ 谷戸往来→p5 ☆5~7 月の日程表(裏表紙) 冬の間に隅々まで行き届いた手入れをしたおかげで、こざっぱりとしていた谷戸も、あっという間に萌え出ずる葉や草に覆われ、緑が濃くなってきます。外で息苦しさを感じても、谷戸で仲間と作業すれば、新たな英気が養われます。活力を社会に還元しましょう。

各班からのお知らせ

田んぼ班 ★5/3(土・祝)、4(日)田うない ★10(土)、11(日)畔の草刈り・苗床の草取り ★17(土)、18(日)、25(日)くろつけ ★31(土)しろかき

いよいよ農繁期。田うない、くろつけ、しろかきと続きます。ド ロドロの田んぼの中に入っての作業ですが、土の感触を味わうのは おもしろいです。また、ヤゴ、カエル、トンボ、カメ…田んぼの中 で生きものとの思わぬ出会いもあります。新緑の谷戸に包まれ、ウ グイスやホトトギス、コジュケイの声に耳を傾けながら、可憐な草 花が風に揺れるのを間近で見ると心が癒されます。作業で適度に汗 をかき、心身ともにリフレッシュ。

今年もさとじまん(うるち米)とマンゲツモチ(もち米)の2種 類、種を育てます。さあ、いっしょに田んぼを楽しみませんか!





★5/4(日)じゃがいもの芽欠き・土寄せ ★11(日)植付け準備・草取り・耕し・畝作り ★18(日)さつまいもの苗植え ★25(日)落花生の種蒔き



今年は春の訪れが遅く、作物への影響を心配しましたが、 春風が吹くと一斉に伸び始め、さやえんどうは白い花を咲か せ、大麦は勢いよく穂を伸ばし、さつまいもの苗床では苗が 元気に育っています。また、じゃがいも、さといもの植付け に、ごぼう、かぼちゃの種蒔きも無事に済ませました。5月 に入るとさつまいもの植付け、麦の収穫、たのくろ豆の種蒔 きと続きます。

風薫る季節、谷戸で過ごす時間は至福のひとときです。



雑木林管理班

★5/4(日)薪作り ★11(日)鎌を研いで草刈り ★25(日)土手の手入れ

今シーズンも例年通り、枯れ木、倒木の伐採、木障切り(田 畑の日当たりに差し障りのある木の除去)を中心に活動しまし た。2度の大雪の影響か、倒木が多いように思います。また、 疎林広場の麦畑脇に、伐採したスギから切り出した板を利用し た堆肥置き場を設置しました。





農芸班

★6/6(日) 梅干し作り (梅の収穫・下漬け)

昨年度の梅干し作りは、自生の無農薬シソを畑班の協力のも と、存分に使わせていただき、紅梅色に色よく仕上げることが できました。昔ながらの酸っぱくて美味しい梅干しを、春の谷 戸まつりで頒布いたします。ぜひ、ご賞味ください。

今年度も、手作りのよさや楽しさを活動を通してお伝えして

🖳 自然遊び班



薄く削った竹にやすりをかける

3月16日(日)に行われた、父 と子の里山体験「竹でお椀と箸作 り」では、1本の太い竹をのこぎり で切り出し、小刀で薄く削り、やす りで滑らかにし、参加者それぞれ個 性あるお椀とお箸を仕上げました。 「さっそく使う」と、みなさんうれ しそうでした。



お椀の大きさに竹を切る

※会報 60 号に掲載・募集しました、里山探検隊(小学生対象 申込み制 定員20名)は、定員に達したため、締め切りました。

★こども里山一日体験

5/11(日)「竹馬・竹笛で昔あそび」 (2歳~小学生までの親子対象、定員15組)

遊びの名人のおじさんと、竹馬や竹笛を作って遊びます。

🦎 生態系保全班

★5/14(水) 水路の手入れと観察

★6/4(水) 田の生物調査

オタマジャクシ保護のため、田んぼに防鳥糸を張りました。効 果がどの程度あるのか観察をしていきたいと思います。ヒキガエ ルの今年の産卵は、とても少ないように感じます。原因が断定で きません。なんとか減少傾向を引き止めたいと思っているのです

★8(日)、14(土) 夜の自然観察 ★22(水) 水の生きもの探し



が、なかなか難しいようです。





田んぼの畔に、等間隔に立てた竹 にテグスを張り、防鳥対策をして います。

全植物育成班

★5/21(水) 植物調査 ★6/11(水) 野草畑の手入れ



ツリガネニンジン

先月に引き続き、ヒメオド リコソウを取る予定です。

また、カナムグラやウラジ ロチチコグサの芽も目立つよ うになってきたので合わせて 取りたいと思っています。

野草畑にはニリンソウのか

わいらしい花が咲き、リンドウの芽も出てきました。秋に集め た野草の種も蒔いたので、手入れや観察が楽しみです。



4/16 野草の苗の移植

谷戸の自然だより

~生態系から観た、雑木林の手入れの基本 その 4~

⑪ツルの功罪

「連休に山崎の谷戸に来たら山のフジが綺麗で感動した」そんな話を聞いて、思わず絶句してしまいました。里山管理の立場からするとフジの花は荒れた里山の象徴だからです。しかし、長年の放置の結果フジが育って花がみごとになり、都会人が喜ぶのも事実です。新しい里山景観ができつつあるのです。
②ツルは木を枯らすのか?

ツルがびっしりとからんだ木をよく見かけますが、必ずしもすべての木が枯れるわけではありません。むしろ枯れる木の方が少ないくらいです。山崎の谷戸の隣接地で、フジの花の調査をした際に、太いフジにからまれた木を調べてみましたが、完全に枯れている木は見つかりませんでした。市内の佐助稲荷という神社には、スギやケヤキ、ムクノキの大木が多数ありますが、30年近く観察してもツルが原因で枯れた木はないようです。ツルを放任すると次々に木が枯れるという話を耳にしますが、大木に絡んだツルに関しては余裕をもって考えてもよいと感じます。

13切るべきツルと残したいツル

生態系から観たツル植物の問題は、木を枯らすということではなく、自然のバランスを崩しやすい点にあります。伐採や湿地の乾燥化など、環境の変化が起こるとツル植物が急激に増えて他の植物が減ってしまいます。このような現象は一時的なものだとも言われますが、実際にはその状態が 20 年以上も続いている例を確認しているので、鎌倉のような都市近郊の狭い里山では駆除していくべきと考えます。

例えば、野草が増えることを期待して雑木林の下草を刈ると、キヅタなどツル植物が一斉に発芽して地面を覆ってしまい、野草などが生えない場合があります。このような場合はツル植物を駆除すべきでしょう。一方で、大木に絡んだ太いツルは花や実をつけて生態系の一部を担っているので、むやみに切らずに残す配慮も望まれます。

かつて 1970 年代は原生林が貴重とされ、ツル植物を切らないことが自然保護になるという学説が流布しました。里山の荒廃が進んだ 1980 年代以降は里山が見直され、ツルを切ることが自然保護と言われるようになり現在に至りました。これからは、前者は生態系を重視した発想ですが、後者は農林業の考え方が主であることを理解して、生態系と農林業の双方の視点から里山を見つめることが大切ではないでしょうか。特に鎌倉のような都市近郊の里山では、狭い面積で多くの生物を守らなければなりませんので、きめ細かい対応が不可欠になります。今回は雑木林のツルについて書いてみましたが、次回はクズなど道沿いに生えてくるツルについて考えます。

ホタルの紙芝居を読んでくださる ボランティアの方募集!

TO

「谷戸はみなさんの日頃の里山保全活動のおかげで、田や湿地が守られ、ホタルが生息しています。毎年6~7月中旬まで、ホタルを観賞するためのマナーや、ホタルの生態を知っていただくために、青空自主保育グループ、町内会、小学校のご協力によって、手作りの紙芝居を上演しています。お友だちやご家族の方を誘って、ホタルの紙芝居ボランティアに参加してみませんか。山崎の谷戸のホタルたちのために、ご協力よろしくお願いします。

日程:6/8、14、7/5、12

時間:18:30~20:30(閉園時間帯に

つき駐車場は利用できません)

集合場所:山崎口ししいし前の

ベンチ

服装:長袖・長ズボン

お申し込み&お問い合わせは

事務局まで

電話 or Fax or メールにて



谷戸往来 谷戸往来

日本自然保護協会主催·モニタリング 1000 里地調査講習会 3/1(土)

アカガエルの卵の観察と植生図調査の講習会が開かれ、遠く山梨からの人も含め、約 50 人が集まりました。山崎の谷戸には、2種類のアカガエルがすんでいるので、講習会に最適の場所です。「卵塊とオスのカエルの観察ができてよかった」と参加者。環境庁が主催するモニタリングサイト 1000 里地調査では、これから 100 年間、アカガエルの卵の数を調べて、環境の変化を記録し



ます。山崎・ 谷戸の会も調 査地点の一つ に登録されて います。

これがニホンアカガエル!

深 沢 中・大 船 中 3年生による谷戸保全活動

鎌倉風致保存会主催、市立中3年による里山保全作業が3/3(月)に山崎の谷戸で実施され、当会は深沢中の指導に協力しました。3/4(火)には体験学習として大船中3年を指導。それぞれに、のこぎりや刈込みハサミなどを使って、下草刈りなどに取り組み、谷戸の隅々がきれいになりました。中学生活のよい思い出となってくれたことでしょう。

かまくら認知症ネットワーク主催 「かまくら散歩」 3/29(土)

初春を楽しむ「かまくら散歩」が、令年も総勢38名の参加で行われました。 オタマジャクシの観察、苗床の土をふるいにかける作業、おだんご作りなど、認知症のご本人も、ボランティアとして参加した山手学院の生徒さんとペアになって楽しまれました。





オリエンテーション開催 4/13(日)

乳幼児連れ親子も含めたくさんの方の参加となり、研修室は満員になりました。会の活動紹介、谷戸塾の説明のあと、谷戸を歩き活動の様子を見学してもらいました。

